

○ワークショップですること

- ①地域の歴史や人口動向、ハード整備等について話題提供
- ②地域の「自慢」と「現状」について、できるだけたくさんのお意見を出す
- ③10年後の自らの暮らしをイメージした上で、どんな地域で暮らしていきたいか、どんな地域でありたいか（将来像）についてみんなで語り合い、まちの未来の姿をキャッチフレーズに集約する
- ④「将来像」に向けた取組みの方向性やプロジェクトを達成するための行動計画について話し合う。（既存の事業の確認、あれば新規事業）

○まちプラン策定に向けて

- ①ワークショップの場を設ける。

・様々な参加者を集める

地域で活動している人、地域の歴史を語れる人、企業や事業者、多様な世代の人

・場所の提供や調整

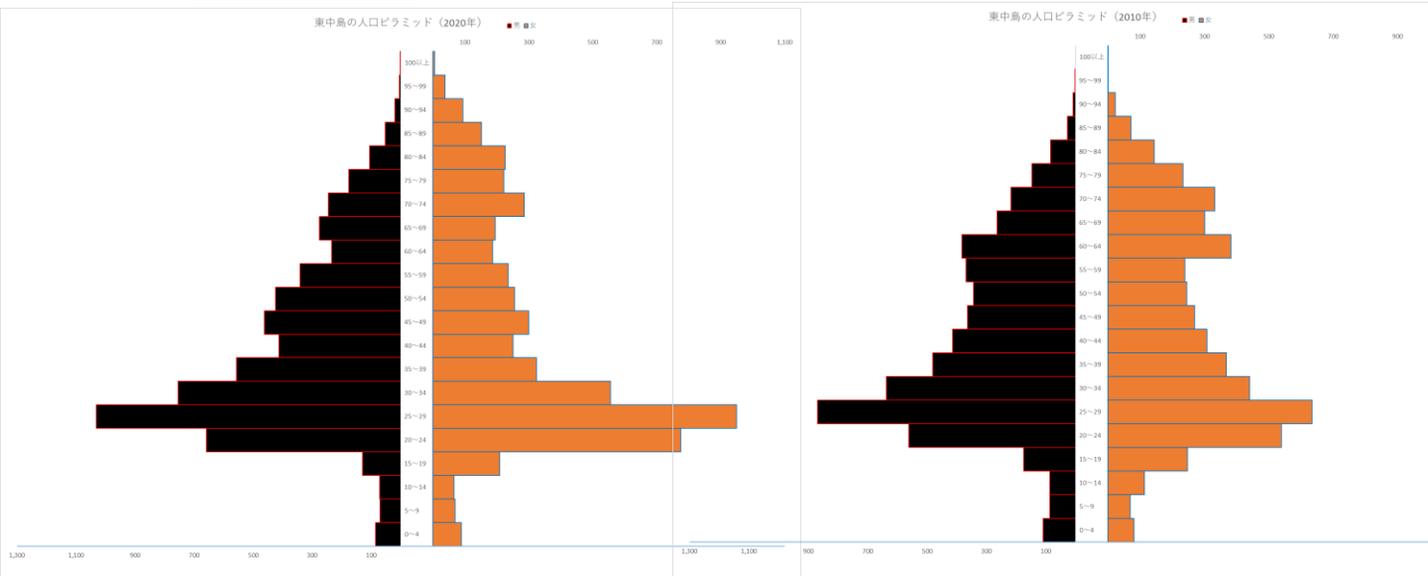
- ②活発な意見交換を誘導
- ③プランのとりまとめ

話題提供資料（例）

人口ピラミッド（東中島）

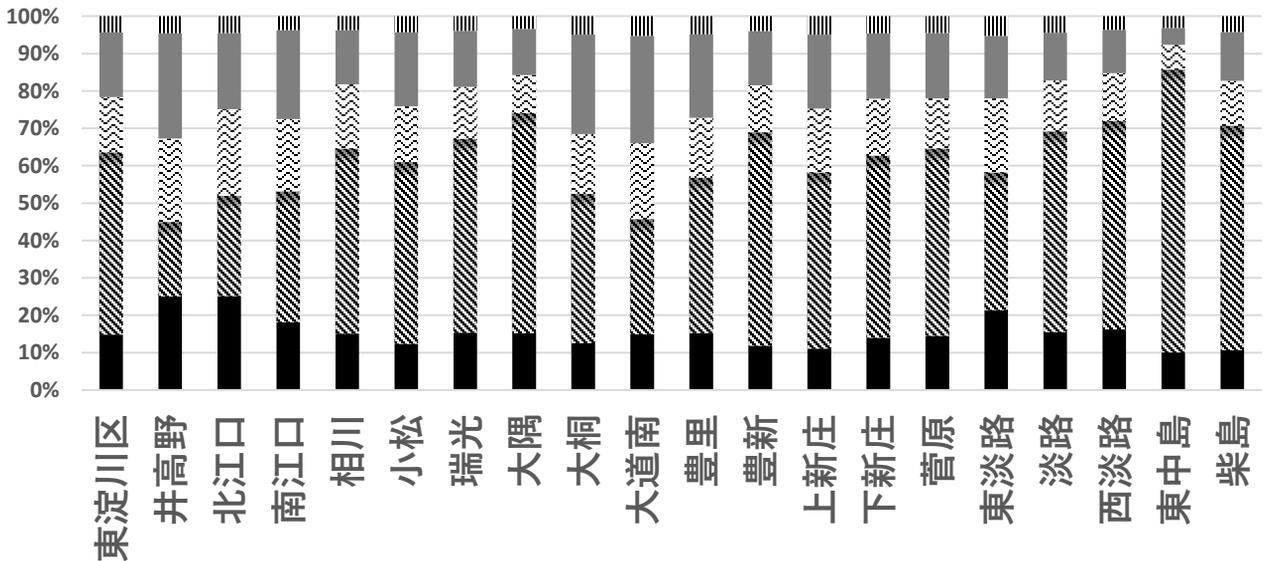
2020年

2010年



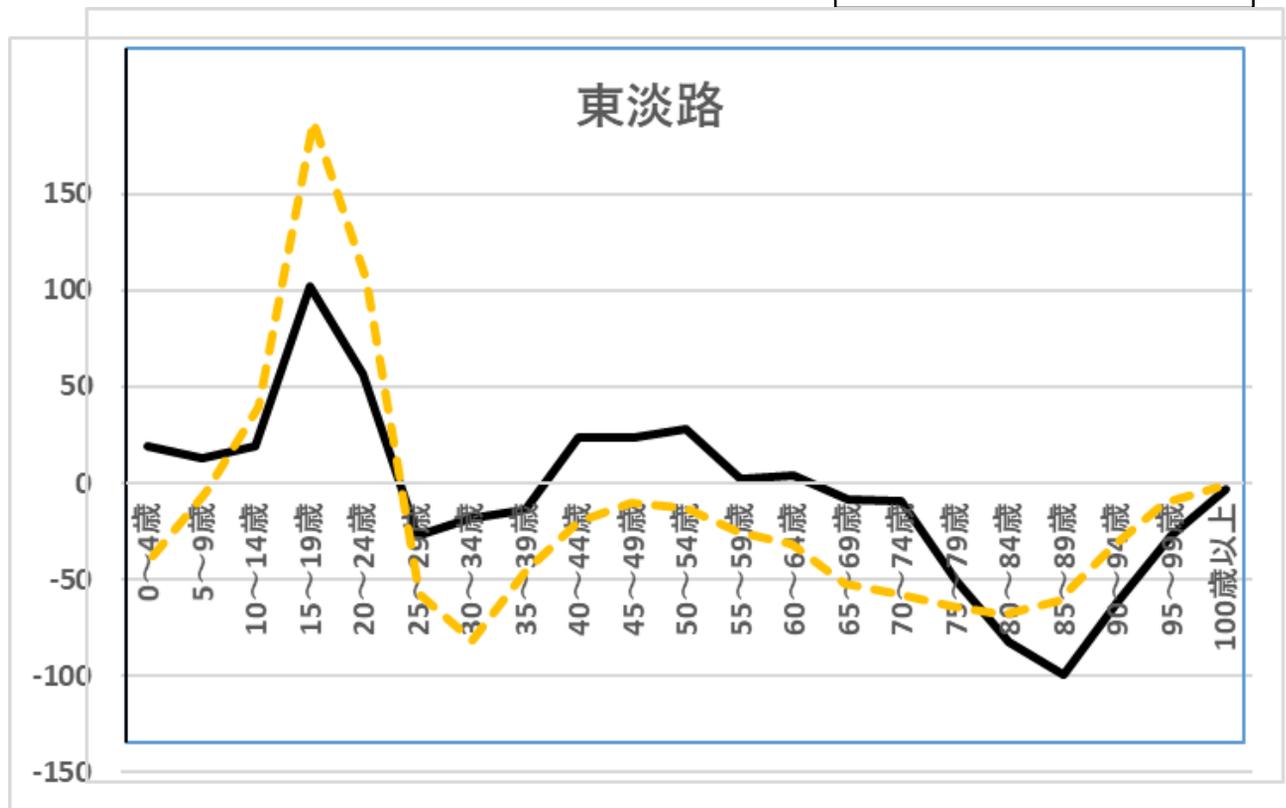
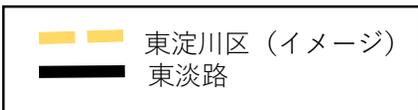
一人暮らし世帯が60%越え

家族類型別世帯数の割合

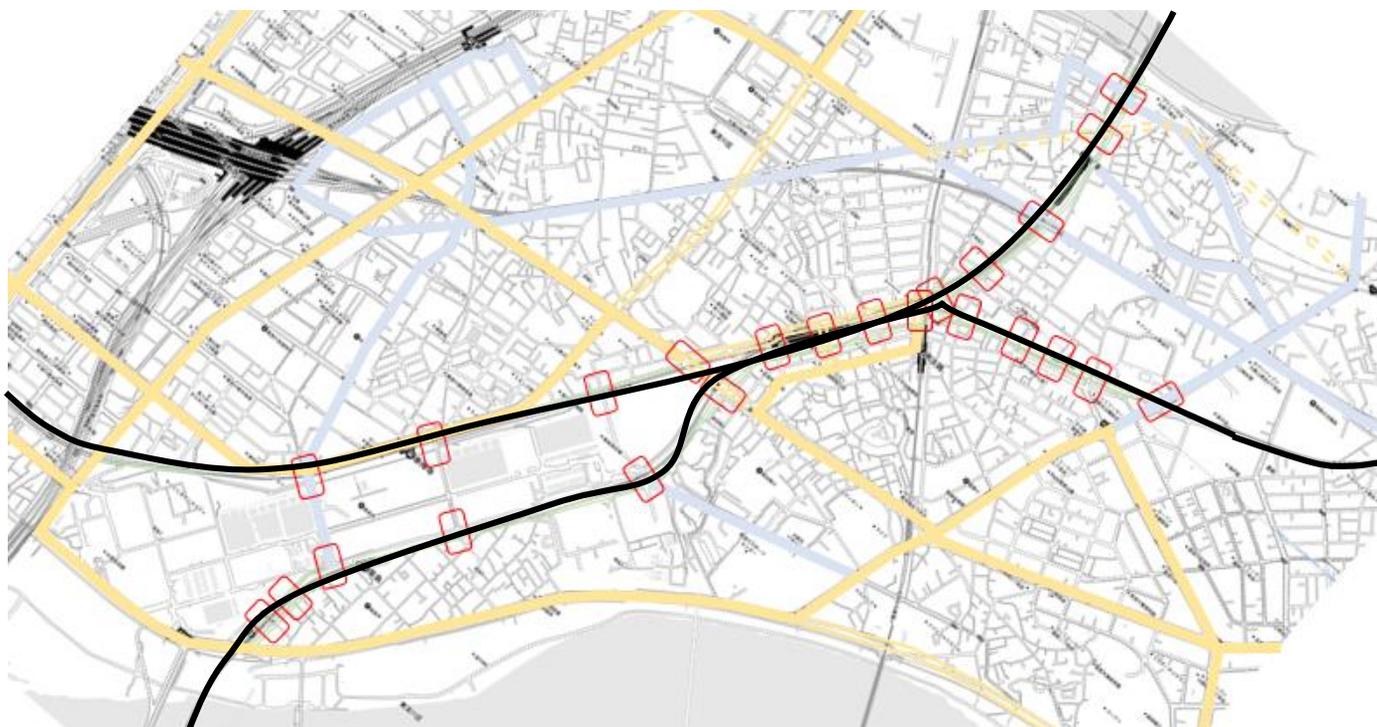


- 単独世帯(65歳以上)
- ▨ 単独世帯(65歳未満)
- ⊘ 夫婦のみ
- 夫婦と子供
- ▨ その他

東淡路の5年間の人口移動 (2015→2020年)

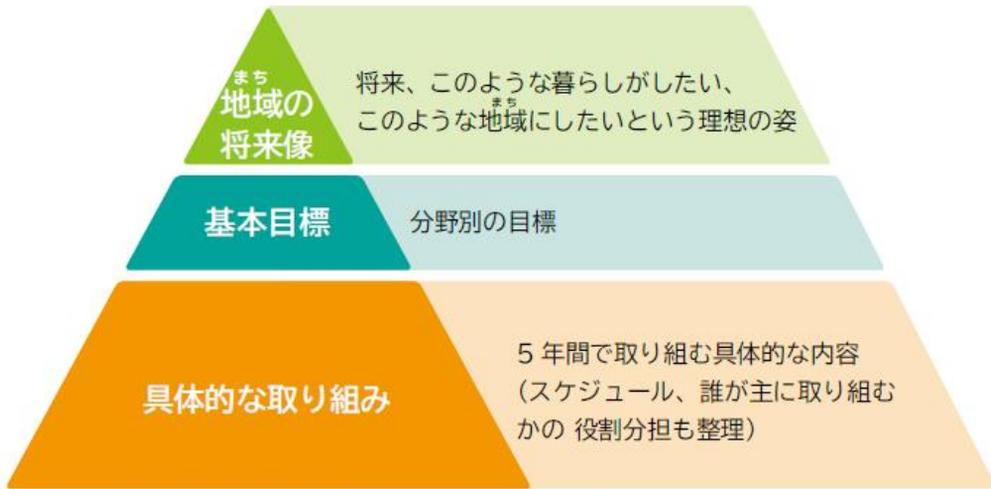


なくなる踏切、つながる道路
高架下も6m道路を整備



まちづくり計画見直し ガイドライン（宝塚市）

【「まちづくり計画」の構成】



【体系図整理例】

